

男性介護職員

介護をやり始めた頃は、下着交換や便の処理は正直つらいな、という感じでした。ただ、他職員と話したりしているうちに、「誰だって嫌だわね」という言葉を聞き、自分だけではない、他の人もそうなんだと思えるようになり、気が楽になりました。自分だけで抱え込まないことが大切だと思いました。不安な時は他の職員に聞けば、何かしら助言をくれるのだから…。

利用者様から「ありがとね」という一言をもらい、やっていて良かったな…とつくづく思うことが多々あります。この「ありがとう」という言葉を聞けば、辛さが吹き飛ぶと同時に、こちらからも何かしら言葉を返します。だんだんと楽しくなっていく、役に立てたんだなと実感することが出来ます。

細かいことですが、夜勤等で同時にナースコールが鳴る時があります。そしたら、利用者様から「あの人からやってあげて」という言葉を聞くことがあります。早く処理をしてもらいたいという気持ちがあるのに…と思うと有り難い限りです。このように、利用者様に助けてもらっていると思うと、“嫌だな”という言葉は浮かびません。

介護をしていて注意しなければならないことは“利用者様は人生の先輩たちであり、私たち職員の言動をしっかりと見ておられる“ということを常に頭の片隅に入れておかなければいけないということです。